

会議録

令和5年1月24日

報告者氏名 柳下 博光

件名	事後評価委員会	
日時	令和5年1月24日(火) 10時30分～	
A	委員	【委員長】長坂敏史 富澤勝 岩下仁 近藤やす子 今井千津子 船越靖彦 萩原三枝子
	B	事務局 上下水道部長 佐々木一弘 上下水道部次長 前島祐三 下水道課 課長 金井宏之 担当 柳下博光 佐藤美希

審議内容

1	開会
2	委嘱書の配布(感染対策のため)
3	事務局紹介
4	部長挨拶
5	委員長及び職務代理者の選出
6	社会資本総合整備計画・事後評価について 交付金の制度、事業内容及び評価書の説明
7	【質疑】
A	都市浸水対策事業について、定量的指標の最終目標値19.97%は和光市全体から見た割合なのか。
B	和光市全体ではなく、和光市の都市浸水対策が必要とされる面積901haからの割合である。 新倉2丁目地区が(図:赤ハッチ部)整備目標面積(180ha)となっている。
A	目標値19.97%に対して実績値は19.83%だが達成できなかった残りの0.14%はどうするのか。
B	隣接する区画整理事業の進捗にあわせて整備を行う予定である。
A	都市浸水対策事業は今後も続けていくのか。
B	雨水管整備は市長の公約にもなっているため今後も継続して整備していく予定である。 今年度も600m程度の雨水管整備を実施している。
A	下水道総合地震対策事業について、目標耐震化延長を教えてください。
B	目標耐震化延長は3,453mである。
A	特に重要な路線とはどのようなことをいうのか。
B	処理場と防災対策本部施設(役所)や特に大規模な広域避難所等の防災拠点をつなぐ管路や緊急輸送路下の埋設管路等をいう。今回の計画では、処理場付近の汚水幹線を整備している。
A	実績値が12.21%だが、今後も整備を進めていくという考えでよいか。
B	その通りである。

和光市 上下水道部 下水道課

審 議 内 容	
A	目標達成できなかった理由として【施工箇所の支障物の影響】とあるがどのようなものをいうのか。
B	施工箇所(土中)にガラや不法投棄物等があり、処分等に時間を要するため今回の整備を見送っている。
A	総合地震対策事業は、今回実施しているマンホールの浮上防止や継手部の可とう化(継手部に発生する不当沈下や伸縮を吸収する)などの事業をいうのか
B	近年、全国各地で大規模地震が発生し、各地で下水道施設に甚大な被害をもたらしている。下水道機能が損なわれるとトイレの使用ができないばかりでなく、汚水の滞留等、住民の健康や社会活動に重大な影響を及ぼす。地震の備えとして重大な施設の耐震化を図る【防災】と被災を想定して被害の最小化を図る【減災】を組み合わせた事業を総合地震対策事業という。これは、下水道管路等の耐震化を図るほか、マンホールトイレの設置等、地震発生時における下水道機能の確保する整備を行う。今回、和光市では、下水道管路等の耐震化としてマンホールの浮上防止や継手部の可とう化(継手部に発生する不当沈下や伸縮を吸収する)を実施した。
8	【意見】 社会資本総合整備計画で掲げた2事業がいずれも目標達成に至らなかった。引き続き各計画に基づき整備に努めていただきたい。
9	評価について 本計画について評価は妥当とし、委員全員の了承をいただく
10	部長挨拶
11	閉会
※ 重要事項◎ を記入のこと	